

2013年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	環境化学 I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期		
必修・選択の別	選択科目(バイオサイエンスコース)／選択科目(食品生物資源コース)／選択科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	菅野 憲一						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基本法の概要、7大公害病、9大地球環境問題を説明できる。</li> <li>・気候変動、オゾンホール、砂漠化、生物多様性、エネルギー問題について説明できる。</li> <li>・水質汚濁の原因や処理技術を説明できる。</li> <li>・産業廃棄物のリサイクル方法について説明し、今後の課題について提案できる。</li> <li>・食品の安全、HACCPについて説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	<p>4/12 導入講義：授業の進め方と概要、成績評価法の説明。 環境基本法と最近の環境問題に関する知識を修得。</p> <p>4/19 地球温暖化と気候変動枠組条約およびIPCC。</p> <p>4/26 オゾンホールとウィーン条約、モントリオール議定書、大気汚染の現状。</p> <p>5/3 水質汚濁と発生源。環境基準、排出基準、水質汚濁の現状に関する知識を修得。</p> <p>5/10 水質汚濁の影響。有害物質、環境ホルモン、ダイオキシンに関する知識を修得。</p> <p>5/17 汚水処理技術に関する知識を修得。</p> <p>5/24 汚水処理における各種計算方法を修得。</p> <p>5/31 重金属などの除去方法に関する知識を修得。</p> <p>6/7 水質有害物質処理に関する知識を修得。</p> <p>6/14 処理水の再利用と大規模設備の水質汚濁防止対策。</p> <p>6/21 おさらい。(小テストを含む)</p> <p>6/28 食品汚染と安全性の確保についての知識を修得。</p> <p>7/5 廃棄物とリサイクル。リサイクル法とリサイクル技術、各種環境管理手法。</p> <p>7/12 砂漠化と森林の役割についての知識を修得。生物多様性条約、砂漠化対処条約と水。</p> <p>7/19 定期試験</p> <p>7/26 環境保全と経済活動の知識を修得。スターンレビューとT E E B。</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%			
	臨時試験	40%	部外評価	0%			
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%			
	課題	0%					
	演習	0%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基本法の概要、7大公害病、9大地球環境問題を説明できる。:達成した。</li> <li>・気候変動、オゾンホール、砂漠化、生物多様性、エネルギー問題について説明できる。:達成した。</li> <li>・水質汚濁の原因や処理技術を説明できる。:達成した。</li> <li>・産業廃棄物のリサイクル方法について説明し、今後の課題について提案できる。:達成した。</li> <li>・食品の安全、HACCPについて説明できる。:達成した。</li> </ul>						
反省点	合格率93%、合格者の平均点は90点であった。公害防止管理者資格の対策となる内容を講義したが、資格に興味をもつ学生は多くなかったようだ。						
来年度の計画	就職対策などにおいても国家資格の取得は望ましいので、公害防止管理者資格に興味を持ってもらえるように工夫したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の平均は8.5点であった。						
履修登録者数	97名	定期試験 受験者数	96名	合格者数	89名	合格率	93%